

TOPICS

トピックス

新年賀詞交歓会を行いました

平成24年1月4日に管理棟4階第1会議室にて、新年賀詞交歓会を行いました。小森彰夫所長から職員へ年頭の挨拶があった後、平成23年中の学会賞等受賞者の紹介がありました。



平成23年 学会賞等受賞者

≪平成23年 学会賞等の受賞者≫ (職名は受賞当時のものです)

受賞年月日	受賞者	賞名
2011.3.29	齋藤 誠紀 名古屋大学大学院工学研究科 エネルギー理工学専攻	第8回日本原子力学会 計算科学技術部会 部会学生優秀講演賞
2011.4.6	森田 繁 教授	社団法人応用物理学会 APEX/JJAP編集貢献賞
2011.5.19	岩本 晃史 准教授	公益社団法人低温工学・超電導学会 平成23年度優良発表賞
2011.5.19	尾花 哲浩 助教	公益社団法人低温工学・超電導学会 平成23年度優良発表賞
2011.9.13	木崎 雅志 助教	第14回イオン源国際会議 シルバーブライトネス賞
2011.10.17	三戸 利行 教授	2011年国際電気標準会議 IEC1906賞
2011.11.3	中村 充希 名古屋大学大学院工学研究科 エネルギー理工学専攻	第8回アジアプラズマ・核融合学会 若手科学者最優秀発表賞
2011.11.22	長山 好夫 教授	平成23年度プラズマ・核融合学会 第16回技術進歩賞
2011.11.22	秋山 毅志 助教	平成23年度プラズマ・核融合学会 第16回学術奨励賞
2011.11.25	松山 顕之 研究員	プラズマコンファレンス2011 若手優秀発表賞
2011.12.6	居田 克巳 教授	2011年度 仁科記念賞
2011.12.27	田村 直樹 助教	核融合エネルギーフォーラム 平成23年度 吉川允二核融合エネルギー奨励賞

平成23年度プラズマ・核融合学会賞を受賞

11月22日から25日にかけて金沢で開催されたPlasma Conference 2011にて、核融合科学研究所の研究者が以下のとおり表彰されました。

長山好夫教授が「LHDIにおけるマイクロ波イメージング計測の開発」の業績に対して第16回技術進歩賞を受賞しました。高感度イメージング検出器、膨大なチャンネル数の受信回路や長波長結像光学系の開発などの高度な技術的課題を克服して、100GHz帯2次元電子サイクロトロン放射イメージング(ECEI)と60GHz帯3次元マイクロ波イメージング反射計(MIR)を開発し、ECEIとMIRとの同時測定に世界で初めて成功した点が評価されました。

秋山毅志助教が「機械振動自己補正機能付き干渉計の開発研究」の業績に対して第16回学術奨励賞を受賞しました。干渉計を用いたプラズマの密度測定誤差を抑制する新しい方法の開発に成功した点が評価されました。

藤田順治名誉教授は、プラズマ・核融合学会の英文誌「Plasma and Fusion Research (PFR)」の創刊時から5年間幹事エディタを務め、献身的な活動によって同誌の学術的価値を大きく高めた業績が評価され、第5回貢献賞を受賞しました。

2011年度仁科記念賞を受賞

本研究高温プラズマ物理研究系の居田克巳教授が仁科記念賞を受賞しました。

受賞対象は「高温プラズマにおける自発電磁場の実験的検証」です。居田教授は、九州大学応用力学研究所の藤澤彰英教授とともに、プラズマの中に生じた小さなゆらぎ(乱流)が、大きなサイズに発展していき、大きなプラズマの流れになること、また、これに伴って大きなスケールの電磁場構造が形成されることを世界に先駆けて実験で観測し、検証しました。木星の縞模様や地球のジェット気流のできる物理と共通しており、物理学上の価値が高いと評価されました。また、現在フランスで建設中の国際熱核融合実験炉(ITER)の信頼性の高い設計と性能予測の向上にも大きな貢献をするなど、核融合エネルギーの実現に向けた学術研究を大きく前進させました。今回の受賞は、こうした学術研究が「プラズマ物理学の新しい研究領域を開拓する傑出した業績である」と高く評価されたものです。

平成23年度東海・北陸地区技術職員合同研修(複合領域コース)を実施しました

11月9日～11月11日の3日間、「東海・北陸地区技術職員合同研修(複合領域コース)」を開催しました。

この研修は技術職員に対し、その職務遂行に必要な基本的、一般的知識及び専門的知識、技術等を修得させ、技術職員としての資質の向上を図ることを目的とし、各機関が持ち回りで開催をしています。今回は核融合科学研究所が企画・開催を担当し、17機関、32名の参加がありました。

第1日目は小森彰夫所長の挨拶に続き、関哲夫安全管理者、朝倉大和衛生管理者による労働安全衛生に関連した講演(「核融合研究所の安全管理」、「安全・快適に働くための法ルール」)があり、その後、受講者の自己紹介を兼ねて、日頃行っている業務及び研究等について、参加者相互のプレゼンテーションが行われました。その後、飯間理史技術部長等の説明により大型ヘリカル装置実験設備の見学が行われました。

第2日目より「危険予知訓練(KYT)トレーナー研修(2日間)」を行いました。講師には、中央労働災害防止協会・中部安全衛生サービスセンターの芳賀伸之事務長、水野聡事務長補佐を迎え、受講者は「指差し呼称」、「健康問いかけKYT」、「KYT基礎4ラウンド法」、「ワンポイントKYT」、「ヒヤリ・ハットKYT」、「自問自答カード1人KYT」、「問題解決4R法」等の各種の手法について実技形式で熱心に取り組み、ゼロ災害を目指した危険予知活動の重要性を認識しました。



チームの連帯感を高めるためのタッチ・アンド・コールをする研修生



大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

核融合科学研究所 発行

NIFS NEWS No.203 (2011年12, 2012年1月号)

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6

TEL: 0572-58-2222 (代表) FAX: 0572-58-2601

URL: <http://www.nifs.ac.jp/>

E-mail: nifs-news@nifs.ac.jp

* 過去のニュースはホームページにてご覧いただけます。

《複写される方へ》

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写特許契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619 E-mail: info@jaacc.jp 著作権の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本研究所へご連絡ください。